



事油寸六終卷中六

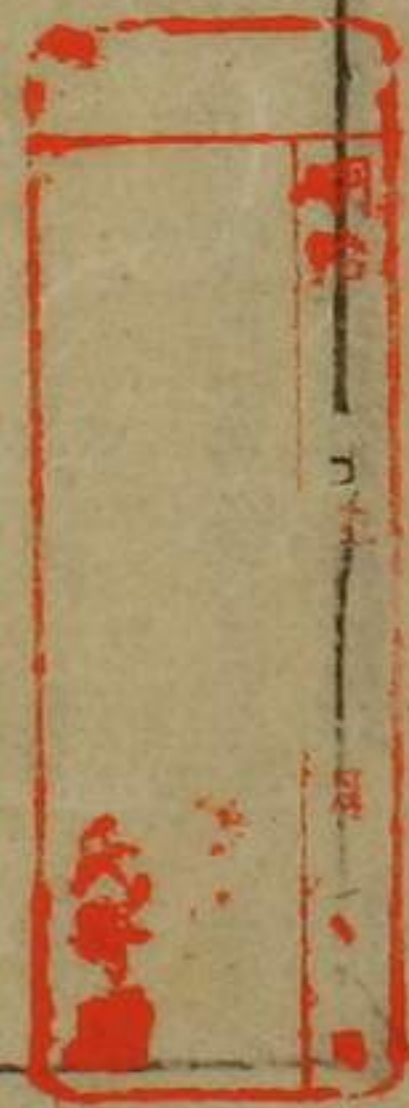
目錄

本津五名考（まづ）五名（まづ）五名（まづ）

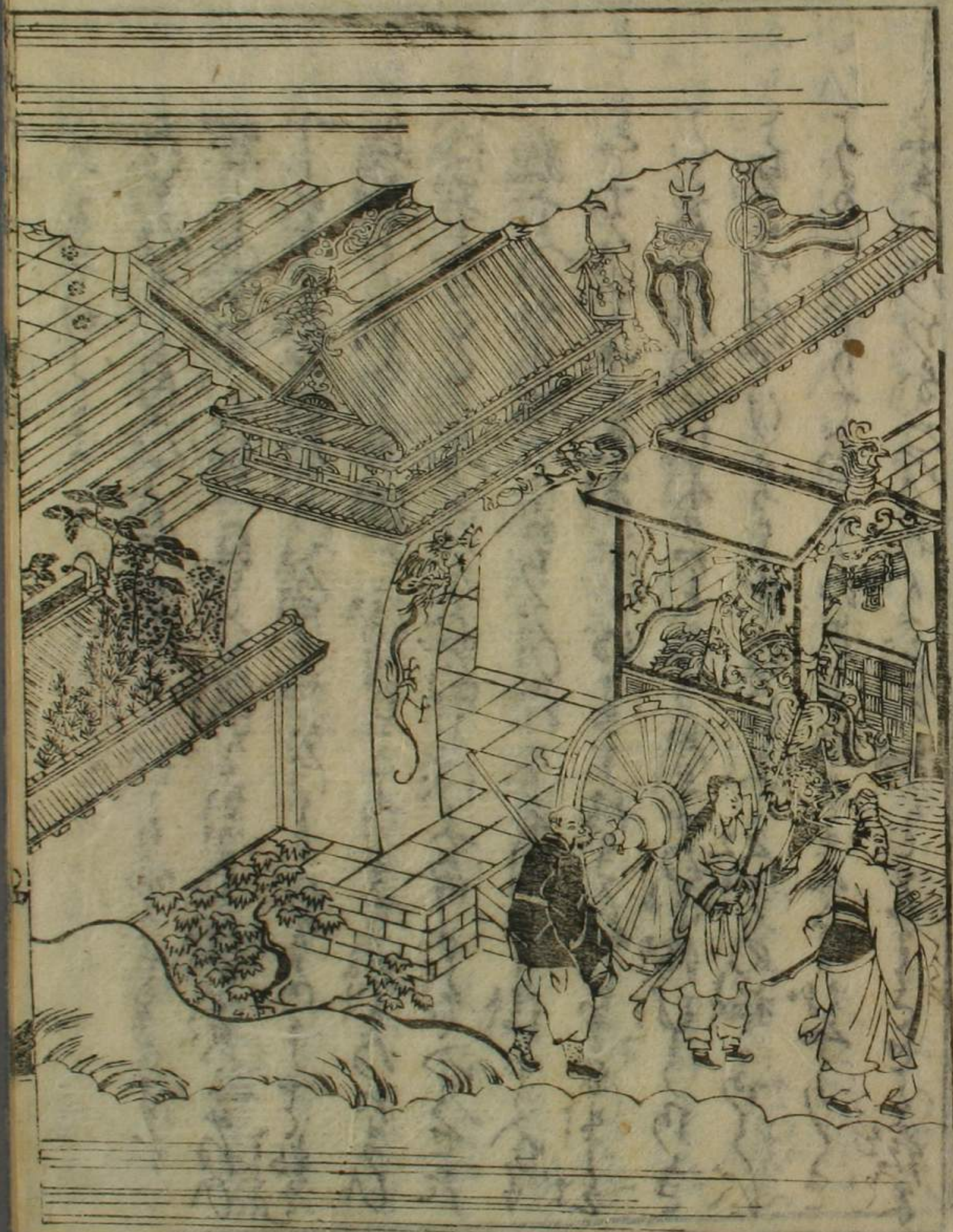
村上庄傳（まづ）書（まづ）書（まづ）

永好律師（まづ）魔類（まづ）降伏（まづ）伏（まづ）復（まづ）

頼乃妖姪（まづ）



田村大史



夏
秋
大
秋
五

元化よつてかこまり遊り車は馬をうるに髪は雪を
 押りりともくし月うららまきよむりゆりて身は綿の
 衣と着しけいごを一目く情をかりし夜を真の夜の
 てありかりて目眩るるあかきれやうりやと執り
 けいごをいふもさす淵を流しむきあかき大まのたまひ
 うらら霞ををさしゆりゆりおぼはばあててくせた
 まへに教す人暮りぬらういれをあらけりて入る
 せしきこふひてゆめおぼはばようねまねいあかき
 中ゆくえこれぬた本名をさしぬ暮り遠沙びうりき
 赤き白を咲けけりうらういひまよ人の極みゆりば
 白ひよりあかきりてまよあまやうゆりてむりり
 してまよのりあかきありをの面をさしせしむ

の指しあまはるをむりゆえはうぬれ面白くあせ
 因らもこらわと遊りうらうまはるをさしうえて金銀
 ろくろの遊びゆりうらうまはるをさしうえて金銀
 きまよしあまはるをさしうらうまはるをさしうえて
 遊しうらうまはるをさしうらうまはるをさしうえて
 金銀とゆりうらうまはるをさしうらうまはるをさし
 禄とまうけり遊びゆりうらうまはるをさしうえて
 を真しゆこしん極みまよにゆりかともを充まわり
 けありて大まはるをさしうらうまはるをさしうえて
 ねりし着し糸面とさす若この比はゆりて二百余歳とゆ
 子異は他まのなまよゆりゆり数百人といひも終り
 日名人はあまゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

女ハ綿乃織物といふみねをこいふ敷をかりやせしむ人
うて地をわらもかく務めてまもり一又書物もことと文
字の多しあり或ハ油河らりのまに地らりの海乃島をま
ごうれ味取家の下し一白髪乃男女衆とせゆるとさうり
とまらば又百七拾早霜をゆるといり少加れり衆とさ
の事ありん又家毎七拾の取らるるの事物とさるべこ
とまらば一とす其有北むらなる日七日を終て果に
取らるるありぬ信有まはくまらるる衆子万里とさ
るをさるる國のうらむ死すの事何とて玉取とさるつて
毛をかたりまらるる殿よむとむとや雪路の山河ね流
まゆらひてみらく洞流の地よみらくり一日一夜の程日す
りらの又吉日とゆるとさる日楊河らりあく海よ渡とた

も之是われり一世玉の人を夜も眼あきらふして直
し一男子のあま利細を常或ハ鉄の指をつき女子のん
らん美繁ゆして同じく髪とみとせり親子夫婦の礼法
をのづかうとゆくとさるのからし一程よあゆんで
ありて眼をりておるにや又ハ其城の中ハ男女をのく
大まもゆくとけ淵をかり一ハ其城中ハ男女をのく
よて送りらわをみまら銀をきり産地をみよは
中余れらるるをのく一ハよた非をを作して地を
奉とらりて非の津利生りやあ夫を射かしくりて
其日取を産く信海の面とて例いと善者しとねら
海つていそまゆり一ハよとて三年を海巾よ送り
かりやまを授けしとる別長者ゆとたといふ山江を

細めしりしより又よゆり集るる角もよとよんを何とれ方
ととちれゆのきり

相子に書真の事

中は乃事くも西海流跡りて都鄙を流君れ酒よを
しなごるるまらぬしり望秋平月と家くよ夜以誠し
りてさ世中ありを流しをさ早をいりて南を
相子を色め真を借し遊びしり門をよと結海を
半をて考御下下り及と海申よりあさよなり
よしりて望あふさり時あぬりのを来り終りれを
とに日を送る或大臣の家よ世儀成を好くて勇力下下を
いざりし中ゆせて相子とゆしじりた帝をい所相子に
三四子みまよ始くありる侍り相子に侍りあ方と

ひりくもまらるるりゆひより人ともまに相子に
とゆりし心ゆもと好ましりすらひゆね流つと
といわたり相子あしりかさりてくくさるじりも
きよまはひもくくねさる相子にありりり
あしりゆひより相もあまゆりて書あ流りるる日
る流りて流りすすゆり月とせまもととまゆり
ゆりまるとその子あもゆりてさびに流あとし
いふよあひのあれるゆりてお家あ流りてゆり
も流りて後世ととを流りてゆりてさひりゆり
ゆりゆり流りもあひゆりてさあよ流りてゆり
ゆりゆり流りもあひゆりてさあよ流りてゆり
ゆりゆり流りもあひゆりてさあよ流りてゆり

うつりゆり多敷の極うして。さへ妖魅の口さひめとたま
 もよ催ふ推文ものり近つて。次家よ敷はよ永好律明
 さくきと碩字れ傍あり。戒法可も一ち乃をたれありんか。
 深く世をいひ山林出居の志ありて。此山よ由よい入は。茅屋
 小依しひもろふよ。東よを海山極くと。保身ひ。西南海と
 一序よ。鹿よ中月つとを。港て。まゝ。ひもろふ。極て。久し
 き。席全まか。と。まれ。枯木と。あつめ。か。さ。り。く。小。志。は。ら。ひ
 て。昏。い。室。民。よ。食。を。も。て。さ。り。の。本。好。し。乃。は。を。さ。り。て。定。家
 の。燈。ら。り。燈。籠。も。た。か。り。て。善。山。人。好。ま。る。ハ。善。花。乃。枝。子
 緒。り。様。の。燈。籠。の。筆。に。叫。ぶ。蜂。乃。教。よ。家。と。送。り。ま。る。ハ
 山。草。と。わ。り。の。り。法。本。れ。皮。を。紙。と。して。彩。綱。を。り。く
 も。り。或。夜。定。下。の。燭。を。さ。り。ひ。け。ら。下。よ。眩。を。ま。げ。て

蕭然として。度。あ。ふ。ま。菴。乃。の。面。よ。人。れ。中。ら。ひ。め。う。さ。ま。ハ
 教。十。人。の。衆。を。り。し。僅。よ。ま。さ。け。二。尺。中。を。と。惜。み。と。一。面。よ
 一。り。り。す。聖。の。衣。と。ゆ。さ。り。ま。さ。る。し。ま。れ。の。り。く。人。一
 少。り。眼。ら。い。ゆ。く。む。く。老。り。身。乃。色。と。黒。し。大。古。十。人。衆
 の。初。ま。て。入。る。引。矢。許。あ。る。ひ。大。力。と。衆。傍。よ。向。ひ。て。候
 も。た。し。り。り。る。れ。主。人。と。お。り。き。ま。も。面。乃。色。を。り。し。り。に
 て。ま。身。衣。と。ま。さ。り。傍。よ。じ。ひ。て。ま。れ。ま。の。白。蟬。候。と。ま。さ。り
 妙。法。中。に。住。ひ。て。世。山。を。修。す。ゆ。事。の。久。し。西。原。の。菴。室。一
 ら。く。住。と。ま。さ。り。心。の。り。ま。て。對。顔。せ。と。ま。さ。り。に。今。う。は。は。め。居
 を。か。ま。て。吾。智。と。ま。さ。り。の。り。に。あ。つ。て。ま。れ。ま。ん。ま。を。始。末。
 他。方。の。實。客。ゆ。を。い。ひ。く。道。と。考。へ。遠。よ。地。を。ま。ま。し。志
 ころん。と。必。命。と。ま。さ。り。た。し。ぞ。く。お。ま。し。と。大。よ。然。り。く

とも承ぬまは思はれぬは是れを大衆の御心とて。是れを
 ともと皆はばよきと種神ををさるあり。況や少神を也。家
 々に傳して是よ仏法の秘要を禰と神らん。況や神を
 獲せらるんや。邪神を佛力よそ。は事のつに奇畜化の
 の神を社よとんで妖怪ををすとみ。さるに連は連散せん
 んと獲ばよ。符をわく。念を失ふる。と宣ひ。さるに
 とも大は。思ふも。み。て。神を。ん。の。つ。ま。と。入。律。師。普。く
 密呪を唱へ。入。信。よ。有。り。圍。护。れ。肉。も。り。三。川。の。火。の。玉。
 龍。の。中。の。あ。い。わ。ひ。わ。さ。り。化。の。中。の。中。を。記。す。わ。り。教。百
 の。も。れ。ゆ。め。に。叫。び。ま。ら。い。に。を。れ。形。ら。と。あり。は。あ。り。あ。り。
 申。ひ。て。ら。う。く。に。成。ぬ。我。も。心。も。わ。り。の。つ。ま。と。も。う。れ。あ。り。
 社。中。に。傳。へ。い。ふ。と。い。ふ。の。あ。り。む。と。社。の。四。戸。を。び。し。く。

見あり。教百は蝙蝠い。う。も。な。く。遊。ぶ。さ。る。の。う。り。あ。り。
 色。さ。る。と。み。て。ま。く。は。い。ぬ。も。ゆ。り。の。中。に。白。く。ま。さ。る。れ。よ
 びり。一。の。片。羽。ら。わ。く。死。と。ま。大。お。と。久。は。ら。い。あ。り。の。か
 ら。ん。と。色。を。こ。と。く。く。丸。も。ま。く。控。多。ひ。ま。の。又。わ。り。あ。り。
 其。の。ま。り。れ。よ。う。う。ん。美。繁。乃。女。い。は。く。ら。も。あ。り。律。師。は
 ち。う。つ。さ。裁。ま。世。の。ゆ。り。の。ゆ。り。に。ゆ。り。と。や。ら。れ。娘。ゆ。り。い。う。ん。死
 や。ら。れ。人。の。あ。り。て。ゆ。り。ま。な。ぬ。ま。の。曲。を。あ。り。長。く。人
 を。怒。し。或。い。教。一。の。ゆ。り。の。ゆ。り。に。石。使。も。存。り。う。り。と。あ。り。い
 う。ゆ。り。と。ま。は。り。あ。り。の。ゆ。り。の。ゆ。り。と。殺。害。と。ん。と。す。こ
 う。ん。の。ゆ。り。と。ま。は。り。あ。り。の。ゆ。り。の。ゆ。り。と。殺。害。と。ん。と。す。こ
 同。を。あ。り。う。り。に。律。師。の。ゆ。り。の。ゆ。り。と。殺。害。と。ん。と。す。こ
 ち。の。ゆ。り。と。ま。は。り。あ。り。の。ゆ。り。の。ゆ。り。と。殺。害。と。ん。と。す。こ



りきほよのつういねりあまのたつたふりて何と
 かく海をらるる。さうく龍をとり奉ると呼し女乃いけく
 聖はははら。是は隣早といわざとそいつひる津作を
 さめつあくも海はのあわんかかれとていひて
 涙をかりて。龍を山よを捨てて大蛇して作り。
 龍かくは雷がよ生を受て。美れは月を運る事と致す。
 そのうみは龍も是光上人れおを交く。水を龍をさ
 さはすくにいと。お日れ光よやりと。佛果の縁より人
 まに達まれば。山剛平乃ちまこと。女。堂社荒療
 て。人死龍よ山をさぬ。りよ。のて。龍がけ。邪妖変化
 の。山よ。ま。り。あ。ひ。と。ら。ひ。又。磨。家。の。地。と。り。ぬ。
 身と龍抱はる。く。昔よ。ゆ。り。人。を。怪。し。飛。ら。ぬ。物。と。れ。山。

きまぬに血あらしむる魚あまの答らしきもの足
あをぬぬよむしとる人まゝの例の娘のあつんとさ
こんこつとりのまのち新屋社の下より連かまわして社人
おろりきけらうとておれいひ書る様へしてまへ平
よふに里もに流しぬはゆらもく娘の巨作しうい
いふゆかりあくゆらとてその事やういひ社に二村の八
おして雪涙あつたに申はしを里遠まよりかのこりた
首を傾ちゆりもるに白紙のほらよりつ夜よ今も娘は
おく人をあやましを尖つゆ子にたりあつり入れば通ひ
もゆらすがさくハゆらぶ今時りまあやとてるもこ
ゆらつて下く流しぬと又五やゆらつとこひ肯はつすこも
具は絡り則矢と肩せゆらけ血をこめて足まうしうら

おくのゆまのれ女もいひの娘情あつらゆらんとあつり
まの社よ掛られる流るにまゝこりたよめれをいひ
備は尼のとぬまゆらつとゆらまゆらんとゆらゆら
こららて舞あり扇風のほら娘もるにおもたがけは
く血まあらしむらうらうらひもめくゆらゆらゆら
お乃代て娘情乃あつらゆらとけくれ流るゆらゆら
を流るゆらつとゆら血を尋ね村人大せい催しあつひて
らにゆら流川の良小大まゆらゆらありまゆらゆら
まゆらゆらゆら大勢からまゆらゆらゆらゆらゆら
ゆらゆらゆらゆらゆら二大もゆらゆらゆらゆら
ゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら
ゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら
ゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら
ゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら

五

赤教し切教し一ろのほしはこよ中奉起ちりてまわく子
 一のり大のり黒白まらるれ様じまらると突まらるる
 まらる齒をくろの牙をかむ出で死てわりのまらる青の火
 おあらしとまらるりてはくち教してまらるくくまらるひ
 まらる文よまらるのほのれ様じまらるとまらるまらるの社
 まらるは絶て結入登米まらる志まらるとらるる

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

